

[010]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7347442>

出版情報：ポリモルフィア. 10, 2025-03-21. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



2024年度 企画広報環境整備部門活動報告

伊藤裕之

男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門長
大学院芸術工学研究院 教授

企画広報環境整備部門では、男女共同参画推進に関する具体的計画や広報活動および就労・就学環境整備に関する業務全般を担当している。担当領域が広範にわたるため、部門内に①企画広報WG ②広報誌『ポリモルフィア』編集委員会の2つのWGを設置してそれぞれ課題の解決に取り組んでいる。2024年度は下記のとおり活動した。

1. 企画広報WG

ニューズレター SANKAKUの発行

男女共同参画推進室では、男女共同参画に関する教職員の意識啓発や学内外への活動の周知を目的として、2006年度からニューズレターを発行してきた。2021年度からは、紙面を大幅にリニューアルし、「SANKAKU」として年2回発行している。

2024年度は、9月に第27号、3月に第28号をWeb上で発行した。巻頭特集の「九州大学で活躍する女性たち」では、本学で活躍する女性研究者として、第27号で沖部奈緒子教授（大学院工学研究院）、続く第28号で安尾しのぶ教授（大学院農学研究院）をご紹介している。お二人ともこれまでのご経歴を振り返りながら、研究者を目指

したきっかけや、研究を続けるうえでのモチベーションの保ち方、これまでに経験した壁とその乗り越え方など、これから研究者を目指す若い世代に向けて、分かりやすくお話いただいた。同じく連載記事の「ワクワク・ライフ・バランス」では、本学の男性教職員に、育児休業を取得した際のご経験について、育児中のお写真を交えながら紹介いただいた。

ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催

ワーク・ライフ・バランスに関する教職員および学生の意識啓発として、2025年1月21日（火）にワーク・ライフ・バランスセミナー「今こそ知りたい男性育休！仕事と家庭のウェルビーイング」をオンラインで開催した。NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表理事の徳倉康之氏に講師をお願いして、男性の育休取得率向上に向けた職場環境づくりや、男性の働き方改革、効果的なチームマネジメントの手法についてご講演いただいた。当日は教職員や学生を含め、30名の参加があった。

その他の広報活動

本学に所属する教職員および学生がライフイ

イベントを迎えるにあたって、必要な情報に適切なタイミングでアクセスできるよう「出産・育児をむかえるときのハンドブック」のデジタル版 (<https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/info/handbook.php>) や、各種リーフレット、活動報告書などの冊子の配布を行っている。また、男女共同参画推進室ホームページ上では、各種イベントの開催報告や部局の取組紹介等の情報発信を継続して行っている。

2. 広報誌『ポリモルフィア』編集委員会

『ポリモルフィア』の編集および発行

ポリモルフィア創刊号を2016年3月に公刊し、今年度は2025年3月に第10号(本号)を公刊した。この広報誌の編集にあたっては、部門内にポリモルフィア編集委員会を設け、掲載記事の検討や簡易査読等を行った。今年度から、新たに園田佳巨理事・副学長、男女共同参画推進室長が同編集委員長を務めている。なお、本号へは学外から4編、学内から2編の寄稿があった。

2024年度は、ポリモルフィア創刊から10年目を迎えた。この節目にあたって、本号では、創刊号の発行にご尽力いただいた方々から、創刊時の想いや本学における男女共同参画の取組の変化、ポリモルフィアに期待することなど、これから先の10年を見据えたメッセージをお寄せいただいた。詳細は、本号の特集2を参照されたい。同じく、特集1として、2024年12月11日(水)に開催された「ダイバーシティ推進トップセミナー『ジェンダー平等からみたグローバル社会における日本の大学』」の抄録を掲載している。

3. その他

ベビーシッター派遣事業

「ベビーシッター派遣事業」を今年度も継続して実施した。今年度の利用者は12月25日時点で17名、利用割引券の交付枚数は1002枚である。また、大学入学共通テスト業務に従事する教職員を対象に伊都キャンパスで一時保育を実施し、職員6名の子ども7名の託児を行った。

ランチタイム交流会

今年度も、ランチタイム交流会を開催した。5月「利用者に聞いてみよう!～ライフイベントに関する九大の研究者支援制度～」、9月『「大学進学とジェンダー」について一緒に考えてみませんか』をオンラインで開催した。

2024年度 学生教育等部門活動報告

野々村淑子

九州大学男女共同参画推進室 学生教育等部門長
大学院人間環境学研究院 教授

本学学生へのジェンダー教育の企画立案・実施、女性研究者の割合が低い理工系分野に係るオープンキャンパス等の企画立案・実施等、その他男女共同参画推進に係る学生に関する業務全般を担当している。

1. 「ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム」

2010年度から始まった本プログラムは、2024年度も継続して実施され、15年目を迎えることができた。学部、修士課程、博士課程に在籍する計8名の学生から応募があった。提出された研究計画を学生教育等部門の協力教員全員で審査を行い、8名が採択された。ただし、倫理的配慮等にかかる記載が不十分であった3名については条件付きの採択となり、2名は再提出後に承認され、1名は辞退した。その後、さらに1名から辞退申請があった。

採択された学生の所属は、人文科学府2名、人間環境学府が1名、統合新領域学府1名、教育学部1名、文学部1名である。2025年2月19日には研究助成を受けた学生6名による報告会を開催し、今年度中に報告書を発行する予定である。ジェ

ンダー研究自体の進展と共に学生の関心も広まり、多様なテーマの研究の応募が見られるようになったことはとても歓迎すべきことである。しかし同時に、採択後に辞退の申し出があるなど、助成を受けて研究することへの理解が必ずしも十分ではないと思われる事態が生じたことから、今後の対応について検討が必要である。

2. 学内外への情報発信

8月3日のオープンキャンパスに出展し、伊都キャンパス 総合学習プラザ2階 オートモーティブサイエンス講義室1にて対面で開催した。「『将来の夢を描こう～あなたの未来予想図をつくる～』キャリアデザイン・ワークショップ」と題して、本学の教員や学生が、イベントに参加した高校生のキャリアを描く手伝いをした。高校生45名のほか保護者の来場もあり、アンケートには参加した高校生から「実際に在学している方とお話しできて良い経験になりました」「私の将来について一緒に考えてくださったので、とてもいい機会だったなと思いました」などの感想が寄せられた。また、本学学生スタッフからは「頑張る高校生を応援できてよかった」「自分も刺激を受ける

きっかけになった」などの感想が寄せられた。

また、11月2日にはアカデミックフェスティバルに合わせて「Open Café 2024 九大女子卒業生に聞く『学校生活やキャリアについて』」を松の実会（九州大学女子卒業生の会）と共催で開催した。ロールモデルとして九大卒のOGの方に講演いただいております、今年で11回目を迎えた。今年度は、対面開催の予定であったが、事情によりオンラインに変更した。農学部卒業生の山本有希氏（有限責任監査法人トーマツ）と工学府修了の吉田梢氏（旭化成ファーマ株式会社）にご講演いただいた後、お二人を交えて参加者との交流会が行われた。

3. 学内におけるジェンダー関連授業の開講

基幹教育総合科目として2015年度から開講している「キャリアデザイン」に関する講義は、男女共同参画推進室専任教員2名が担当し、2024年度春学期には「キャリアデザインⅠ 男女共同参画の観点から」、夏学期には「キャリアデザインⅡ ダイバーシティ社会の実現へ」、秋学期には「キャリアデザインⅢ ジェンダーと教育」のテーマで実施した。

基幹教育総合科目「女性学・男性学」（前期；今年度は Semester 科目）は、各研究分野の専門家による、オムニバス形式によるジェンダー学の講義である。今年度は対面授業を主としながらもオンラインも含めて実施した。例年通り今年も履修制限人数200名を超えるほど受講希望が多く、課題にも意欲的な回答が提出され、熱心に取り組んでいる学生の様子が伺い知れた。ジェンダーやセクシュアリティのテーマは、既存の多様な学問

領域における新たな視点、視座であり、領域によって、またそれぞれの立ち位置によって、さまざまな研究成果が蓄積されてきている。できる限り幅広い講義となるように工夫しており、それも本講義を通して学生たちに伝えたいことの一つである。

なお、上記以外の関連授業については男女共同参画推進室のホームページにて紹介し、各科目のシラバスへリンクを張っている。

(<https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/upbringing/syllabus.php>)

4. 大学院生を対象とする啓発・研究活動支援

今年度も2024年12月2日に、女子大学院生応援セミナー「TOEIC (R) L&R 目指せスコアアップ講座」をオンラインにて開講した。ネイティブスピーカーの講師と日本人の講師による実践的な講義が行われ、女子大学院生に加えて、学部生や男子学生も含む20名が受講した。受講後に、「音読に初めて挑戦した。学校でやるよりも、何度も一緒に取り組んでくれたので、これからも自分でやってみようと強く思えた」「文章の読み方のコツが詳しくわかった。」等の感想が寄せられた。

2024年度 女性研究者支援部門活動報告

加藤聖子

男女共同参画推進室 女性研究者支援部門長
大学院医学研究院 教授

女性研究者支援部門は、女性研究者の増加策と上位職への登用に関する企画立案をはじめ、女性研究者の研究力向上、活躍可視化に関する業務全般を担当している。九州大学における女性比率は2024年5月現在、教員全体で17.6%、教授で8.7%であり、国立大学協会が2025年までの目標と定めた女性比率の教員全体24%以上、教授20%以上には遠く及ばない状況である。しかし、5年前の2019年と比較すると女性教授は41名(5.9%)から62名(8.7%)へと着実に増加しており、この増加基調を今後加速していく必要がある。

前年度は研究力向上に向けた両立支援の対象を男性にも拡大する変更を実施したため、その初年度の実績を確認した。この点を含め主な取り組みや活動事項を以下に紹介する。

1. 女性研究者の増加策、及び上位職への登用促進

ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)

文部科学省補助事業として6年目の最終年度を迎え、次年度以降も自主事業として継続することが決まっている。詳細については本誌の「九大フ

ラッシュ」にて紹介する。2019年の事業開始以来、研修修了生男女40名の中から2025年1月現在、女性教授10名、女性准教授10名が誕生し、またそのうち2名が大学の副理事に就任するなど順調に上位職への登用が進んでいる。

ダイバーシティ推進トップセミナー

女性の上位職登用に向けた大学及び部局執行部、幹部事務職員の意識改革を目的とし、本セミナーを開催している。10年目となる今回は、12月11日(水)に開催した。

講師に国際連合大学上級副学長/国際連合事務次長補の白波瀬佐和子氏を迎え「ジェンダー平等からみたグローバル社会における日本の大学」のタイトルで講演いただいた。2019年度以来の対面開催となり80名を超える参加があった。講演抄録を本誌「特集1」に掲載している。

2. 女性研究者の研究力向上・活躍可視化

研究力向上セミナー

女性研究者の研究力向上を主な目的に、本年度は1月から3月にかけて初級・中級者向けの英語力強化に関する3回シリーズのセミナーを以下の通

り開催した。

シリーズ1「英会話スキル向上講座」

(トライズ社)

シリーズ2「英語論文投稿入門」

(エルゼビア社)

シリーズ3「英語論文のブラッシュアップ」

(カクタスコミュニケーションズ社)

全てオンラインで日本語によるセミナーであり、特にシリーズ1については教員、研究者、学生だけでなく事務職員の参加もあった。

ライブイベントに伴う研究継続支援

昨年度、支援対象を男性研究者に拡大する大きな変更を行った。「研究補助者雇用支援」に関しては早速男性研究者からの応募があったが、産前・産後及び育児休業3ヶ月以上を条件としている「出産・育児復帰者支援」には男性研究者の応募は無かった。

前年度と比較し対象拡大による応募者数、採択率に大きな変動は見られなかったため、次年度も同様の内容で継続募集する。なお支援者実績は以下の通りである。

研究補助者雇用支援（雇用経費の支援）

2023年度 女性研究者16名（教授2、准教授7、講師3、助教4）

2024年度 女性研究者13名（教授2、准教授2、講師2、助教7）

男性研究者3名（教授1、准教授1、助教1）

出産・育児復帰者支援（研究費の支援）

2023年度 女性研究者5名（助教3、研究員2）

2024年度 女性研究者4名（助教3、研究員1）

若手女性研究者・女子大学院生の表彰制度

(伊藤早苗賞)

今年で7回目となる本表彰制度は、女性研究者の育成と大学のダイバーシティ促進に資することを目的としている。若手女性研究者部門、女子大学院生部門それぞれ人文・社会科学系、理工学系、生命科学系から1名ずつ計6名が選出され、各部門で最優秀賞1名、優秀賞2名が決定した。受賞者の紹介と最優秀賞受賞者の研究内容紹介は本誌「九大フラッシュ」に紹介している。

3. その他

女性職員エンカレッジメントセミナー

2021年度から開始した本セミナーは、昨年度は2024年2月20日に「フォローアップでチーム力アップ」のタイトルで一般社団法人チーム力開発研究所理事の青島未佳氏に講演いただいた。本年度は2025年1月9日に「先輩女性管理職に聞く 第2弾 ～私らしく働くために～」と題して開催し、本学の医系学部等事務部長 永野間昌代氏、および佐賀大学初の女性部長 高橋かおり氏の女性管理職経験者お2人から話題提供をいただいた。業務への姿勢に加え、ワーク・ライフ・バランス充実に欠かせないプライベートの話題もあり、参加者の多くが刺激を受けたようである。概要を本誌、「九大フラッシュ」に紹介している。